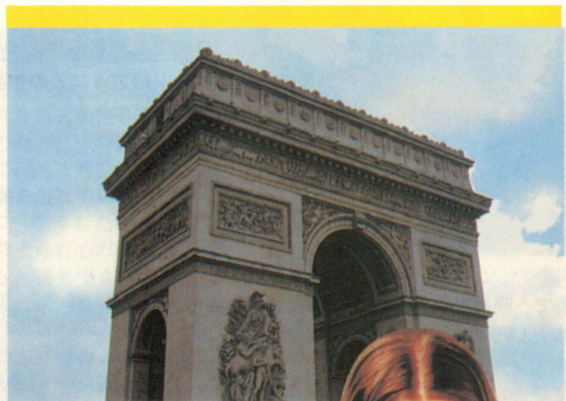




# École Mannequins de Paris



DEVEZ  
MANNEQUIN À  
PARIS, LA VILLE DES  
ARTS



LA VIE...

LA MODE...

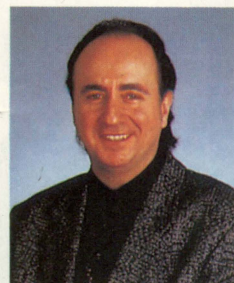
L'ART...

LA DANSE...

PARIS CENTRE STUDIOS  
パリ・サントル・スタジオ

**フランス文化省公式認定校**

— 日本人生徒へ門戸開放に向けて —



私たちの学校方針は常に明瞭です。  
もしあなたが自分の行動パターンに大きな変化を与えたいと思うならば、芸術性、音楽性を基に自分自身を表現する力を身につけることです。  
私たちは、その方法としてエクスペリオン・コーポレル（身体表現）、振付、ダンス等豊富な経験を生かしたカリキュラムを組んでいます。そして卒業生が、ヨーロッパと日本とに粋決められない国々で素晴らしい女性として活躍してもらいたいと願っているのです。

Paris Centre Studios  
校長 Pierre ClAVENAD



Paris Centre Studios  
学校沿革

創立:1964年 校長:ピエール・クラヴナッド  
所在地:パリ9区 教授陣:130名  
在籍生徒数:2,000名 床面積:2,500㎡

フォト・スタジオ、衣裳室、録音室、オーディションスタジオ、カフェテリア

ダンス  
留学コース

1ヶ月～3ヶ月、1年コース、短期ツアー

- ジャズダンス ●コンテンポラリー ●クラシック
- 社交ダンス ●タップダンス

- 世界一流教授陣指導、宿泊施設付、専属コーディネーターが言葉のお手伝いをします。

★パンフレット請求無料



エコール・マヌカン・ドゥパリ 株式会社 流美  
〒151 東京都渋谷区代々木1-23-10第一瑞穂ビル 3F  
TEL 03-5351-6861 FAX 03-3320-7617

LA SOCIÉTÉ NOUVELLE DE CINÉMATOGRAPHIE PRÉSENTE

ALAIN DELON

LINO VENTURA  
DANS



# LES AVENTURIERS

TECHNISCOPE

UN FILM DE  
ROBERT ENRICO

EASTMANCOLOR

INSPIRÉ DU ROMAN DE JOSE GIOVANNI (ÉDITIONS GALLIMARD)  
SCÉNARIO ET ADAPTATION DE JOSE GIOVANNI, ROBERT ENRICO, PIERRE PELEGRI  
DIALOGUES DE JOSE GIOVANNI ET PIERRE PELEGRI

UN FILM PRODUIT PAR LA  
SOCIÉTÉ NOUVELLE DE CINÉMATOGRAPHIE - PARIS



AVEC  
JOANNA SHIMKUS  
ET  
SERGE REGGIANI

DIRECTEUR DE LA PRODUCTION  
PAUL LAFFARGUE  
DIRECTEUR DE LA PHOTOGRAPHIE  
JEAN BOFFETY  
MUSIQUE DE  
FRANÇOIS DE ROUBAIX  
ÉDITIONS ET PRODUCTIONS MUSICALES PATHE MARCONI

Imprimé en France  
Affiches Gaillard Paris 1974

# リュック・ベッソンが「グラン・ブルー」で描いたテーマの

# 冒険者たち

●配給 CIS CINEMA INTER-SPROCKET

LES AVENTURIERS

抜けるような青空と見渡す限りの蒼い海。海底深くに眠る財宝を探すロマンにとり憑かれた二人の男と彼らの夢を理解し行動をとる一人の女。三人の友情は危ういバランスを保ちながら、やがて起きる悲劇を予感させるかの如くあまりにも幸福感に満ち溢れている。

—— 30歳以上の映画ファンの中に、こうしたイメージと共に映画『冒険者たち』を宝物のように心の奥に大切にしまっている者は少なからずいる。59年生まれのリュック・ベッソンもおそらくその一人に違いないだろう。

男のロマンに生きるエンゾ(ジャン・レノ)とジャック(ジャン＝マルク・バル)の友情は本作でのリノ・ヴァンチュラとアラン・ドロン(アラン・ドロン)のそれと限りなく近い。そしてロザンナ・アーケットの『グラン・ブルー』での役名(ジョアンナ)ともなったジョアンナ・シムカスの存在。……海への埋葬シーンなどのディテールは言うに及ばず、ここにはベッソンの描いた世界のエッセンスそのものの原点がある。それ故に『グラン・ブルー』が人生観を変えたという若い映画ファンにとって、今回の『冒険者たち』リヴァイヴァル公開は自分の眼でその原点を確かめるチャンスとなるだろう。

原作は自身映画監督としても知られる作家ジョゼ・ジョヴァンニによるセリ・ノワール「生き残った者の掟」だが、監督ロベール・アンリコはジャン・ポフティ撮影による美しい映像と共に男のロマンや三人の男女の愛といった叙情的な世界を築き上げている(脚本にはジョヴァンニ自身も参加している)。

ドロンが呟くように唄った「愛しのレティシア」(作曲フランソワ・ド・ルーベ)も名曲で、今でも時々テレビCMなどに使用されたりしている。



舞台はパリ。少年の日の夢を追い続ける二人の男がいる。飛行訓練学校の教官をしながら凱旋門をくぐり抜けるアクロバット飛行を成功させて賞金を頂戴しようと目論む青年マヌー(アラン・ドロン)と、もういい歳だがレーシング・カー用のエンジン開発で一旗挙げる夢を抱く元レーサーのローラン(リノ・ヴァンチュラ)だ。どちらも大人に成り切れない様な二人は妙に気が合う。

そこへ一人の若い娘が現れる。自動車のスクラップ部品からオブジェを作る芸術家の卵レティシア(ジョアンナ・シムカス)だ。すっかり意気投合した三人は協力し合い、それぞれの夢の成就も目前と思われた。だがマヌーのアクロバット飛行は大きなフランス国旗が邪魔をして失敗に終わる。さらに賞金の話がマヌーをかたごうとした男による出まかせと分かり、市内での無許可飛行によって彼のライセンスまで取り上げられてしまう。

今度はレティシアが個展を開くことになり二人を招待してくれた。レセプションに出掛けていった二人は賑やかな会場で眩く光り輝いているレティシアを見て、彼女には会わずに帰宅する。だが翌日、レティシアは泣きながら現れた。新聞で酷評された上に全財産をはたいてしまったのだという。時を同じくして、ローランが苦心の末完成させた高性能エンジンもテスト走行の際に爆発してしまい水泡に期してしまった。

それぞれに挫折した三人だったが、マヌーをかたごうとした男が罪滅ぼしのつもりで耳寄りな話を持ち掛けてきた。それはコンゴ動乱の際、避難しようとした人々を乗せた飛行機が彼らの財産もろとも墜落し今も海底に沈んでいるという話だった。三人はオンボロ船を借りてコンゴ沖に宝探しに出掛けていくのだが……。

●1967年/フランス映画/ソシエ・ヌーヴェル・ドゥ・シネマト  
グラフィ製作/カラー/113分

## スタッフ

監督……………ロベール・アンリコ  
脚本……………ロベール・アンリコ  
ジョゼ・ジョヴァンニ  
ピエール・ベルグリ  
撮影……………ジャン・ポフティ  
製作……………ポール・ラファール  
音楽……………フランソワ・ド・ルーベ  
美術……………ジャック・ドイディオ  
録音……………クリスチャン・フォルジェ

## キャスト

マヌー……………アラン・ドロン  
ローラン……………リノ・ヴァンチュラ  
レティシア……………ジョアンナ・シムカス  
パイロット……………セルジュ・レジアニ  
ポール……………ポール・クロウシェ  
ハンス……………ハンス・メイヤー

## STAFF

Réalisateur…………… Robert Enriko  
Scénario…………… Robert Enriko  
Jose Giovanni  
Pierre Pelegri  
Directeur de la Photographie…………… Jean Boffety  
Directeur de la Production…………… Paul Laffargue  
Musique…………… Francois de Roubaix  
Décors…………… Jacques Doyisio  
Ingénieur du son…………… Christian Forget

## CAST

Manu…………… Alain Delon  
Roland…………… Lino Ventura  
Laetitia…………… Joanna Shimkus  
Le Pirlote…………… Serge Reggiani  
Paul…………… Paul Craucet  
Hans…………… Hans Meyer

原点はすべての作品の中にある。

## ●MESSAGE



我輩はだな、世をしのぶ仮の姿で、映画館に行くのが非常に好きなのであるな。仮の父親というのが、株主招待券というのを毎月もらってくるんで、ある一定の映画館のプログラムは、全部タダでフォローできるという、たいへん恵まれた環境にいたわけだ。映画を見るってことは、人間どもの研究に非常に役立つ、有意義な時間である。

アラン・ドロンは、人間としては二枚目というジャンルに入るやつだわな。普通、二枚目をフューチャリングした映画にいい映画っていうのはないだろう。だから、この「冒険者たち」に我輩は、なんの期待もせず見に行ったのだ。そうしたら、なんとまあ、深い映画なんだ、これが。人生の不条理を絵に描いたようなドラマだ。「ジョーズ」タイプの盛り上がりはないのだが、妙に、我輩の胸にズッシンと来た。クライマックスがないのに、強い印象を残すとは、凄ではないか。

音楽もいい。あの「レティシアのテーマ」がいい。時には口笛、あるいは、アラン・ドロンが歌う「愛しのレティシア」として、いろんなアレンジをされて、様々なシーンのバックに流れている。もちろん他の曲もあるが、ポイントとなる場面では一貫してあのメロディーが使われているわけだ。

普通、雰囲気盛り上げるには、悲しい所じゃ悲しい曲、楽しい所じゃ曲全体が楽しっぽいものをだな、使うもんだらう。だが、この映画じゃ、すべてにあのメロディーを使うことによって、それぞれの感情を抑えて、全体を物悲しく切ないトーンにしておるのだ。あのメロディーは、一度聴いたら耳に残って忘れられない。レコードが欲しくて欲しくて。思わずレコード屋に走り、サントラ盤を買ってしまったではないか。うっ、これは洗脳ではないか。いつも我々が人間どもに、黒ミサを通じてやっている方法と同じではないか！ — わっ我輩とあるうものが、不覚にも！ でも、好きなもんはしょうがないのだ。

レティシアの水葬シーンもいいが、エンディング・シーンがまた格別の感動ものなのだ。マヌーが死に、そのかたきを討つため初めて銃を使ったローランが、全ての終わったあと、「おお」と頭を抱える姿をとらえながら、カメラが引いて海に浮かぶ要塞島の全景…そこでFin。ところがTV放映されていた時、マヌーが撃たれたところでプツン。芸術作品を、考えなしの大胆カットでないがしろにしたTV局！ 映画は映画館で観るのが一番だ。

## デーモン木暮(聖飢魔II)

(1988年第1刷発行。主婦と生活社刊 angle 別冊「史上最強のシネマ・バイブル」より転載)

今から28年前、私は映画『冒険者たち』に出演しました。監督のロベール・アンリコ、共演者のリノ・ヴァンチュラ、ジョアンナ・シムカス、セルジュ・レジアニとの仕事は素晴らしいものでしたし、私は今でもこの作品を自分の出演作品の中でも大好きな作品の一本に数えています。リノは1987年に惜しくもこの世を去りましたが、この作品に於いて描かれていた青春の夢、愛、友情といったテーマは決して色褪せることなく語り継がれていくだろうと思います。今回、日本で『冒険者たち』をリヴァイヴァル公開することですが、若い世代の映画ファンの方々にこの作品を観て頂ければ私としてもこの上ない喜びです。

友情をこめて。

Alain Delon

1994年12月、パリにて。



DEMON KOGURE

悪魔教教主・θ 33式×GD類別A666型・蠍座

## PROFILE

B.D.98038年11月10日生まれ。地獄の都ビターバレイ地区出身。世をしのぶ仮の姿で、人間を研究するために早稲田大学へ通う。'85年9月第一教典「悪魔が来たりてヘヴィメタ」で人間界にデビュー。「蠟人形の館」「アダムの林檎」「ステンレスナイト」などをヒットさせ、全国各地での黒ミサで布教活動を行い、人間たちを洗脳している。



7/15(土)より独占レイトロードショー!!

PM 9:00 開場  
PM 9:10 上映  
— 日曜 休映 —

特別鑑賞券1,400円好評発売中! 都内各プレイガイド、チケットセゾン、チケットぴあ、テアトル・セゾン系劇場にてお求め下さい。

「映画生誕100年」公開記念プレゼント!

★劇場窓口で前売券をお買い求めの方にスチール写真をプレゼント!  
★初日、先着100名様にフランス版オリジナルポスターをプレゼント!

テアトル新宿

新宿東口・伊勢丹新館となり 03-3352-1846

